【問 1 模範解答】

2025 年の感染症：勇気と信念の年

「COVID-19 の危機は去ったかもしれないが、厳しい教訓が残っている：世界は次のパンデミックに対する備えが極めて不十分である」と、アントニオ・グテーレス国連事務総長は 2024 年 12 月 27 日の国際疫病対策の日に述べた。グテーレス事務総長は、いくつかの辛い教訓は学ばれたとはいえ、5 年前に COVID-19 が足がかりを得ることを許したと同じ弱点や脆弱性の多くが依然として存在すると指摘した。しかし、2025 年にはいくつかの重要なイベントがあり、感染症に対して行動する重要な機会となる。今年下される決断は、パンデミックとグローバルヘルスにより広範な影響を及ぼすだろう。

2025 年 5 月は、WHO 加盟国が世界保健総会で長期にわたるパンデミック協定の交渉を妥結させる期限である。パンデミックの予防、備え、対応を目的とするこの協定は、COVID-19 や将来のパンデミックに対処するために非常に重要である。しかし、特に、病原体情報の共有、ワクチンや治療法といった必要不可欠な技術の共有などの争点については、各国のコンセンサスが得られていない。ますます分断する世界で団結することは疑いようもなく困難であるが、この合意を得ることができなければ、世界保健にとって大きな失敗となり、効果的な多国間保健機関としての WHO の信頼性を大きく損なうことになりかねない。

また、2025 年 3 月には、Gavi の 2025 年ハイレベル誓約サミットが、EU とビル＆メリンダ・ゲイツ財団の共催で開催される。Gavi は、低所得国における予防接種へのアクセスを向上させる上で重要な役割を果たしており、2026 年から 30 年にかけての最も野心的な戦略（Gavi 6.0）に資金を提供するために、少なくとも 90 億米ドルの調達を目指している。この戦略には 5 億人の子どもたちを保護し、2026 年から 2030 年にかけて少なくとも追加で 800 万人から 900 万人の命を救い、150 の疾病発生に対応することで世界保健の安全保障を強化することが含まれる。Gavi が全額資金提供されれば、予防接種の普及率を確保し、健康格差の是正を図り、特に低所得国における疾病発生率と子どもの死亡率を抑えることができ、世界保健の重要な柱となる。

感染症による脅威は制圧されたわけではなく、少なくとも一部のケースでは抑えられているが、私たちが自己満足して油断すれば、いつでも再来する可能性がある。2025 年は、ためらっている時ではなく、グローバルヘルスとウェルビーイングへの取り組み姿勢を改めて強く示し、COVID-19 の教訓を実践し、連帯を強化し、私たち全員が直面する健康上の課題に世界が立ち向かえるようにする時である。十分な勇気と信念があれば、このビジョンの実現は可能である。

【問 2 模範解答】

世界有数の気象機関 2 機関が発表した年次報告書によれば、今後 5 年間で地球の気温は観測史上最高、あるいはそれに近い記録的水準に達する見込みであり、より致命的で極端な気象が発生しやすい状況になると予測されている。報告書によると、今後 5 年間で地球温暖化が 1.5℃を超える確率は 70%に上る。1.5 度を超える温暖化が進行すれば、気候システムの転換点（ティッピング・ポイント）が引き起こされるなど、より深刻な影響リスクが高まる。科学者らは、海氷や氷河の融解が間もなく不可逆的な段階に達し、海面上昇に劇的な影響を及ぼす可能性があると警告している。さらに同報告書は、今後 5 年間のうち少なくとも 1 年が観測史上最も暑い年となる確率を 80%と算出した。また初めて、人類が大量の化石燃料を使用し始める前の時代より平均気温が少なくとも 2 度高い年が出現する可能性（確率は低いが）を示唆している。1.5 度の地球温暖化は、パリ協定の長期的な目標を超える一歩となるものであり、多くの国、特に低地の小島国にとっては生存のために不可欠とされている。同協定は長期的な気温上昇を 2 度未満に抑えることを求めているが、単年の 2 度突破が直ちに協定違反となるわけではない。北極圏の温暖化は、極域の冬季において世界平均の 3.5 倍以上の速度で進行し続ける見込みである。氷床の融解や海面上昇に加え、温暖化が 0.1 度進むごとに、熱波や集中豪雨などの極端気象の頻度と激しさが増すことになる。記録上最も暑かった昨年は、パリ協定の 1.5 度の上限を初めて超えた年となった。過去 5 年間では、前例のない熱波から、昨年のヘレーンのような急速に発達するハリケーンによる内陸部の致命的な洪水まで、世界中で極端気象の悪化がみられた。